

発行：余市協会病院
 発行日：平成 28 年 3 月 1 日
 発行人：吉田 秀明
 編集人：広報委員会
 お問い合わせ：0135-23-3126



研修医リレーコラム80 「アッペについて」

手稲溪仁会病院外科研修医の三輪晃士と申します。この度は、たいへんお世話になりました。多々ご迷惑をおかけしましたが、皆様の温かいご支援のおかげで、1 か月間の研修を修了することができました。ありがとうございました。今回はこの場をお借りして、アッペ(「いわゆる盲腸」)についてご説明させていただきます。

「アッペ、ヘモ、ヘルニア」といって、外科医の卵が初めて手術させてもらえる3大疾患に虫垂炎(＝アッペ)、痔(＝ヘモ)、鼠径ヘルニア(＝ヘルニア)があります。なかでもアッペは、緊急で行うことが多いため、やはり若手外科医は緊張します。アッペは若手外科医が行う手術だからといって診断から治療まで楽勝なわけでは全くありません。このコラムを読んで、アッペの奥深さを知っていただければ幸いです。

腹痛(特に胃痛)で病院受診された方を胃腸炎疑い(そもそも胃腸炎という病名はないのですが)として帰宅してもらう場合、「痛みが右下腹部に移動したら必ず病院に来てください」と外来医師は念をおします。虫垂の表面に走っている神経が炎症で刺激されると、その信号は脳に伝わり、「痛み」を感じます。しかし、胃の表面に走っている神経も脳の同じところにつながっているため、虫垂の痛みを胃の痛みとして脳が勘違いしてしまうのです。炎症が強くなるにつれ、壁側腹膜(お腹の中の天井)に虫垂の炎症が及んではじめて痛みは虫垂がある部分に局限するようになります。ここで、注意しなければならないのは、虫垂が必ずしも右下腹部にあるとは限らないことです。たとえば妊婦さんの場合、大きくなった子宮によって虫垂が右上腹部に持ち上げられることになります。なので、痛みは「胃痛→右上腹部痛」といった感じで変化します。他にも、虫垂が律儀にお腹の天井に向かって生えていてくれればアッペになった際には上記の典型的症状になるのですが、背側に向かって生えていたり、骨盤の中に入りこんでいたりした場合は典型的症状にならず、診断が遅れることになります。

診断が遅れると、炎症は盲腸(虫垂は盲腸から生えている)に及んだり、虫垂が破れて周辺に膿瘍(膿貯まり)ができてしまうことになります。この段階で手術をしようと同盲部切除といってより大きな手術になり、手術の合併症リスクも上がります。血圧などが落ち着いている場合は、抗生剤治療して炎症が落ち着いた頃に手術することが多いです。

アッペの鑑別疾患で悩ましいのは憩室炎です。憩室は年齢を重ねると誰にでも生えてきます。盲腸にできた憩室に炎症が起きるとアッペと同様の症状をきたすので、造影 CT を取らないと診断がつかないことも多いです。憩室炎は抗生剤でよくなります。

アッペは 10 歳台から 30 歳台に多い病気ですので若い人の病気と考えられがちですが、高齢者でも発症することもあり、特に高齢者は痛みを感じにくいいため診断されたころには重症になっていることが多いのが特徴です。

まとめですが、虫垂炎はこわい病気です。診断が遅れると治療期間が長引くこともあります。しかし、胃痛程度の段階では様々な鑑別疾患があるので診断にたどり着かないことがほとんどです。どの疾患も同じですが、「症状の経過」が重要になってきます。しかし、その経過は2～3日で劇的に変化していくことが多いですので、2-3 日で症状が変化する場合は必ず病院受診することをお勧めします。 [手稲溪仁会病院](#) [外科研修医](#) [三輪晃士](#)

地域医療国際支援センター活動レポート Report+01

外来看護師杉原彩恵子です。私は NPO 法人 GLOW の看護研修員として、地域医療と国際協力を学ぶため当院で働かせて頂いています。昨年 9～12 月に、タイのバンコクとミャンマーとの国境付近の山岳地域の病院にて海外研修を行なってきました。その報告会を先日院内でさせて頂きました。

タイは新千歳空港から 6 時間ほどの場所です。仏教国で、目上の人を大切にする、みんなでご飯を食べるといった日本に似た習慣も持つ国なので、とても馴染みやすく、また皆本当に親切でした。美味しい食事の話も含め、タイの紹介を行ない、行ってきた研修先の病院の話をしました。

経済発展の著しいタイでは、都市部では日本と変わらない生活ができる一方、国境付近の地域では、大きな病院までは、舗装されていない山道を車で片道 5 時間かけて行く必要があったり、タイ語の話せない少数民族が多くいたり、治療に十分なお金を持っていない方がいたりします。そうした人々に対し、病院や各地域の診療所や機関が連携し合ってカンファレンスや連絡を取り合ったり、往診したりしていました。

また医療だけでなく寄付の制度を作っていたり、そこに住む人たちがその地域を守れるように奨学金制度で保健師を育成したりもしていました。厳しい現状に対して、熱く取り組むスタッフたちに学ぶことが多くありました。

背景は異なっても地域医療という点で似通った考えを感じるものがあつたため、報告会を通じて余市で日々頑張っている人たちと話を深めることが出来たのは嬉しい機会でした。より深めて考えたい部分もあるので今回に限らず今後もこうした話が出来たらと思っています。



救急件数 (2月) 外来受診253件 うち入院61件 救急車来院79件 うち入院45件